

海外渡航の予定がありますか —感染症対策をお忘れなく—

保健管理センター所長 井上 哲文

ほけせん便り93号

平成21年07月03日発行

【行うべき対策の要旨】

- ◆渡航予定地域の感染症汚染情報を事前に入手する。
- ◆その地域に蔓延している感染症に関する基礎知識を身につける。感染ルート、潜伏期間、主要症状などが重要。
- ◆感染から身を守るための対策を講じる。第1点は現地における対策で、飲み水、食べもの、防虫などが主要項目。第2点は現地に入る前の対策で、予防接種が主要項目。
- ◆これらに関する総合情報を提供している公的ウェブサイトを利用する。
- ◆**新型インフルエンザ対策を実践する(重要)。**

【お勧めウェブサイト】

外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>
海外旅行者のための感染症情報(FORTH; 厚労省検疫所) <http://www.forth.go.jp/>
感染症情報C(国立感染症研) http://idsc.nih.go.jp/disease/swine_influenza/index.html
新型インフルエンザ対策関連情報(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/index.html>

【地域の主な感染症とその感染経路】

1. アジア: コレラ・赤痢・腸チフス・A型肝炎(飲み水・食べもの)、マラリア・デング熱・日本脳炎(蚊)、ラッサ熱・エボラ出血熱(サル・ネズミ)、狂犬病(イヌ・ネコ)、ペスト(ノミ)、破傷風(土)、HIV感染症・B型肝炎(性的接触)
2. アフリカ: コレラ・赤痢・腸チフス・パラチフス・A型肝炎(飲み水・食べもの)、マラリア・黄熱(蚊)、狂犬病(イヌ・ネコ)、ペスト(ノミ)、破傷風(土)、B型肝炎(性的接触)
3. 中南米: コレラ・赤痢・腸チフス・パラチフス・A型肝炎(飲み水・食べもの)、マラリア・デング熱・黄熱(蚊)、狂犬病(イヌ・ネコ)、ペスト(ノミ)、破傷風(土)

【感染症汚染地域で避けるべき行為】

1. 生水、氷、生魚介類、生野菜、果物、乳製品摂取
2. 蚊やノミに刺されること
3. イヌ、ネコ、サル、ネズミなどとの接触
4. はだし歩行とサンダル歩行
5. 性的接触

【予防接種を検討すべき疾患】

黄熱、A型肝炎、破傷風、狂犬病、ボリオ、ジフテリア、日本脳炎等



新型インフルエンザ対策について(重要)

- ◆海外渡航を予定している方は、渡航先の新型インフルエンザ感染状況およびWHOの情報等、最新情報を入手して下さい。渡航中は、十分注意の上感染防止に努めるとともに、感染が疑われる場合には速やかに医療機関を受診して下さい。
- ◆帰国時の検疫において何らかの指示を受けた場合には、その指示を遵守して下さい。
- ◆帰国後に、38℃以上の発熱、喉の痛み、頭痛、咳、下痢などの症状が現れた場合には、最寄りの保健所(発熱相談センター; 本学の最寄り保健所は多摩府中保健所042-362-2334; 夜間・休日・祝日の連絡先は03-5320-4509)に電話で相談し、その指示に従ってください。保健所(発熱相談センター)相談を経由せず、発熱外来機能を有する一般医療機関を受診する事もできますが、事前に電話連絡をする必要があります。基礎疾患を有する者等(妊婦、慢性呼吸器疾患・慢性心疾患・糖尿病等の代謝性疾患・腎機能障害・ステロイド全身投与等の免疫機能不全等を有しており、医師により重症化のリスクが高いと判断されるもの等)に該当し、かかりつけの医師がいる場合には、その指示に従ってください。
- ◆新型インフルエンザ罹患の診断を受けた場合やその罹患が疑われる場合は、療養に専念してください(外出を自粛し、原則として入院ではなく自宅療養)。治癒するまでの間、登学・就業は禁止です。これらの場合は、大学に電話等による緊急連絡をしてください。
- ◆「患者の濃厚接触者」については、都道府県等から外出自粛等への協力や、症状が出現した場合の保健所への連絡が要請されます。これに従ってください。この場合も、大学に電話等による緊急連絡をしてください。